「今だから話せるくまモン愛」 熊本県歴代くまモン担当課長による座談会

「くまモン学」は、九州新幹線全線開業時にデビューしたくまモンの10周年を節目に創設された新しい学問の領域です。くまモンに関する素朴な疑問から研究はスタートしましたが、2013年前後と2016年にくまモンのブームが起きたことが明らかになっています。なぜこのブームが起きたのかを、くまモンの喜びも哀しみも共にしてきた当時の課長達に語っていただきました。大阪での活動開始から、楽市楽座による認知度アップ、海外ブランドとのコラボレーション、アジアでの海外展開、そして熊本地震時のくまモンの果たした役割と話は尽きません。ここではそのほんの一部をご紹介します。

復興支援のロゴマーク

初代課長：熊本大学理事　宮尾 千加子氏

神出鬼没大作戦や3万枚の名刺配り等のKANSAI戦略で、吉本新喜劇の「くまもとデー」が実現しました。知事の大学教授時代の教え子等周囲からの反対もありましたが、最後は直談判で知事にお願いし、「それは熊本県のためになるか？」と決断され出演していただきました。たくさんの仲間達とワクワクしながら仕事ができました。

3代目課長：(株)あえる代表取締役社長／(一財)くまもとSDGs推進財団代表理事 成尾 雅貴氏

ドイツのシュタイフやフランスのバカラ等のヨーロッパ老舗ブランドとのコラボレーションを始め、くまモンのブランド価値が上がることはなんでもやりました。熊本地震の際は、銀座熊本館に連日支援のための大行列ができ、復興支援のロゴマークにより、「熊本の復興のために日本中が連帯している」というイメージで発信されました。

5代目課長：(株)くまもとDMC代表取締役社長 磯田 淳氏

KANSAI戦略を大阪で担い、最初は観光ポスターでも小さな扱いでしたが、次第に扱いが大きくなっていくのを目の当たりにしました。国内での人気を追い風に、訪日客が多いアジアをターゲットに現地企業と連携したプロモーションを企画。台湾や香港ではコンビニチェーンと組んだ取り組みが大きな反響を呼ぶなど、アジアでの人気は高まっていきました。

4代目課長：尚絅大学現代文化学部教授 柳田 紀代子

熊本地震によるあまりの大きな被害にくまモンは活動する場所がないとSNSを含めすべての活動を停止しました。復興支援のロゴマークを初めとする全国からの復興支援、子ども達からくまモンを心配する手紙や似顔絵に背中を押され、5月5日のこどもの日に活動を再開し、避難所で生活する方々から歓迎を受けました。

くまモンの今後については、その人間力に期待する話、くまモンに頼りすぎていないかとの問題提起、世界にはばたいてほしいとのエール、愛着心を高めて末永く活動してほしいと提言が語られました。そして会場からの「くまモン、とても好き」の声に引かれ、飛び出してきたくまモンは会場と一体となったステージを繰り広げてくれました。

これからも、くまモン、くまモン学へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

熊本県　尚絅大学 尚絅大学短期大学部　ホームページ　新しくはじめました！ くまモン学サイト

（撮影：宮井正樹）

お問合せ：尚絅地域連携推進センターまで（熊本市中央区九品寺2-6-78 TEL：096-362-2011）

©2010 熊本県くまモン

KUMAMON Studies News Letter

vol. 2 2023.3

くまモン学ニューズレター 2号

第2号は「くまモン学フォーラム」特集号

2023年2月18日土曜日、尚絅アリーナにおいて、「くまモンのこれまで　そしてこれからを考える」をテーマに、くまモン学フォーラムが開催されました。2月とは思えない穏やかな天気のもと、熊本県外140名を含む550名の参加者をお迎えし、笑顔と熱気に包まれたフォーラムとなりました。今回はこのフォーラムの概要をお伝えします。

開会挨拶

熊本県知事
蒲島郁夫

「くまモン学」は、文字通り、くまモンを学問体系で捉えるものです。

例えば、報道においても、マスコミ各社でくまモンに対し様々な視点や着眼点がありますが、こうした面でも分析研究ができます。掘り下げていくと、大変有意義な研究になるのではないではないかと私は考えています。

先日、秋篠宮皇嗣妃殿下が全国結核予防全国大会への御臨席のため、御来熊されました。大変光栄なことに、妃殿下は大会中ずっと、くまモンバッジを着用されました。そして、このことがマスコミにも大きく報道されました。新聞やテレビを見ながら私自身、大変幸せな気持ちになりました。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ紛争の長期化、さらにはトルコ南東部地震による惨状など、世の中には閉塞感が漂っています。私は、くまモン学を通して、くまモンが世界中の人たちに希望や幸せを与えてほしいと願っています。くまモンを中心とした共有空間は、平等であり、紛争もありません。このくまモンの共有空間が、世界中にもっともっと広がるよう、引き続き、くまモンには活躍してもらいたいと思っています。

頑張れ、くまモン！！

尚絅大学・
尚絅大学短期大学部
学長
山縣ゆり子

本学を設置する尚絅学園は、創立時より「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」を建学の精神としておりますが、くしくも、2020年9月に県と協定を結びスタートしました「くまモン学」はまさに、この建学の精神につながっており、本学での教育・研究に大いに生かされていると思っております。

本学で立ち上げました「くまモン学プロジェクト」の歩みについて簡単にご紹介しますと、2020年10月には生みの親の小山薫堂氏、水野学氏、そして育ての親である蒲島知事の対談、それを冊子にして広く紹介し、昨年度は現代文化学部を中心に行ったくまモンのメディアへの登場や地域に与えた効果の分析、今後の展開などの研究成果を蒲島知事に報告。そして本日、「くまモンのこれまで　そしてこれからを考える」というテーマでのフォーラムの開催でございます。

くまモン学が、本学における地域と連携した学びや研究の進展にも大いに相乗効果を与えていますが、このフォーラムではこれからについても展望されます。くまモンの成功体験に学ぶ新たな文化資源（ソーシャルコンテント）を見出せればと期待しております。

〈くまモン学研究報告〉①「地域ブランドとくまモンの関係」共同発表

熊本県立大学総合管理学部教授　望月信幸氏

横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授　君島美葵子氏

熊本県の持続的な活性化を図ることにくまモンがどれほど貢献しているのかについて、管理会計の視点から捉えることにしました。

熊本県では、観光や農業を中心とした地域資源の活用促進などを通じて、熊本県の地域ブランド（熊本県発の製品・サービスや熊本県のイメージ）を広めるための方策を行ってきました。その中でも、熊本県の地域ブランドを広めることに大きく貢献しているのがくまモンです。くまモンは2010年に誕生して以来、九州新幹線の開通や熊本地震からの復旧復興、農産物の海外展開など、熊本県関連のイベントや試みでは必ず最前線に立ち、PRに一役買ってきました。それが熊本県の活性化をさらに促進したと考えられます。

今回は、経営管理手法の1つであるバランス・スコアカード（BSC）を用いて、熊本県の地域ブランドを広めることに対するくまモンの貢献を描写しました。今後はこの描写を通じて、くまモンの貢献を定量的に可視化することが課題です。

②「くまモンアーカイブの構築に向けて」

尚絅大学現代文化学部教授　桑原芳哉

「くまモンアーカイブの構築」に関して、国内での出版物を対象として、2022年までのリスト作成を行っています。

・くまモンに関する図書（書籍）126点
・くまモンに関する新聞記事（連載マンガを除く）7,452件
（熊本日日新聞5,527件、朝日新聞1,925件）
・くまモンに関する雑誌記事・論文309件

出版・発表時期別に見ると、朝日新聞掲載記事件数を除き、いずれも2013年が最多であり、「誕生」から３年程度の間が、活字メディアで盛んに取り上げられていた時期であることが確認できます。新聞記事では、社会面や地域ニュースのほか経済面にも相当数掲載されているほか、雑誌記事・論文においても「経済効果」等に関する研究論文もあり、親しみやすい「ゆるキャラ」としてだけではなく、経済・社会現象としても注目度が大きいことが窺えます。

③「キャラクターの理論におけるくまモンの位置づけ」

尚絅大学現代文化学部准教授　三浦知志

ポップカルチャーに造詣が深いライター・小田切博氏は、キャラクターは①図像（キャラクターの形や色などの視覚的デザイン）、②意味（キャラクターの単純で記号的な意味内容等）、③内面（キャラクターが特定の物語を生きる中で手に入れる、人間としてリアリティのある性格）の三つから考えられると述べています。ひとたび誕生したキャラクターは、図像・意味・内面のいずれにおいても変化する可能性を秘めています。

くまモンについては、①図像＝シンプルな造形、②意味＝「熊本県PR」「男の子」などの公式設定、と言えるでしょう。熊本県は、くまモンの色や体形を変えた絵の使用などに大きな制限を与えています。さらに③内面はほとんど与えられていないように見えます。理論的にはキャラクターは変化してしまうものなのに、くまモンはあまり変化しないように制御されているのです。くまモンがキャラクター理論を裏切るのかどうか、今後も目が離せません。

〈くまモンランド化構想について〉①「今後の展開について」

熊本県知事公室くまモングループ課長　脇俊也

くまモンランド化構想とは、熊本県がくまモンの魅力あふれる場所となり、世界中からヒト、モノ、企業が集まる地域になることを目指すものです。

そのため、県内各地にくまモンの世界観を浸透させること、くまモンの高い認知度・好感度を興味・関心に繋げることが重要です。

くまモン第2フェーズ＝くまモンランドの実現で、引き続き、くまモン・熊本を盛り上げて参ります。

◎くまモンCommunity：くまモンマーケットを特定し、必要な情報を届ける
・くまモンアーカイブの整備、くまモン検定の実施（2022年11月）、公式ファンクラブ“くまモンFANS”設立
◎くまモンWorld：くまモンの世界観を県内各地に浸透させる
・観光地“くまモンTOWN”（人吉・球磨地域）、地域全体を観光農園と見立てる“くまモンFARM”（水俣・芦北地域）、地域特性を際立たせる“くまモンLOCAL”（山鹿市）
◎くまモンConnect：くまモンに出会える機会を拡充する
・くまモンスクエア、くまモンビレッジ、熊本駅、阿蘇くまもと空港での定期出動を実現
◎くまモンTours：熊本県＝くまモンランドの周遊を促進する

スポット司会から一言

現代文化学部３年　大村実由

くまモンが多くの人に愛されているということを実感できる1日でした。
私たちで終わることなく、後輩の学生にも末永く引き継いでいってほしいです。

②「わたしたちが考えるくまモンランド化」プレゼンテーション：現代文化学部３年「地域マネジメント研修Ⅱ」の履修学生

1年間、くまモンについて学んできた私たちが、くまモンランド化を考えてみました。

1班：上天草チーム

海も山も楽しめる上天草市に着目。オルレやBBQといった楽しみ方にくまモンをプラスすることで、くまモンの世界観をも十分に満喫できるプラン

2班：湯道ガールチーム

九州随一の人気を誇る黒川温泉に「湯道」の付加価値をつけることで更に魅力アップを図ることを提案。さりげないくまモンカラーで統一することで、黒川温泉の風情ある町並みを邪魔せずに温泉を楽しむプラン。

コラム　くまモン学フォーラムについて

総合司会：尚絅大学現代文化学部長　畠山真一

くまモン学フォーラムでは、アカデミックな分析および歴代の担当課長による座談会を通じて「くまモンのこれまで」が総括されるとともに、くまモンランド化構想の詳細と事業プランの提案によって「くまモンのこれから」が議論されました。

本フォーラムの実施によって、くまモンに代表される地方発キャラクターをとりまく生態系を発展させる研究体制が構築できたと考えます。これからのくまモン学の発展にご期待ください。